

2021年4月24日



# 日本に住む外国人母子が安心して 保健医療サービスを受けられるために

## JICA地球ひろば月間特集 海外そして日本におけるシェアの取り組み

～誰もが保健医療にアクセスできる、全ての人が健康でいられる社会を目指して～

(特活) シェア = 国際保健協力市民の会  
在日外国人支援事業担当

山本 裕子  
(保健師、看護師)

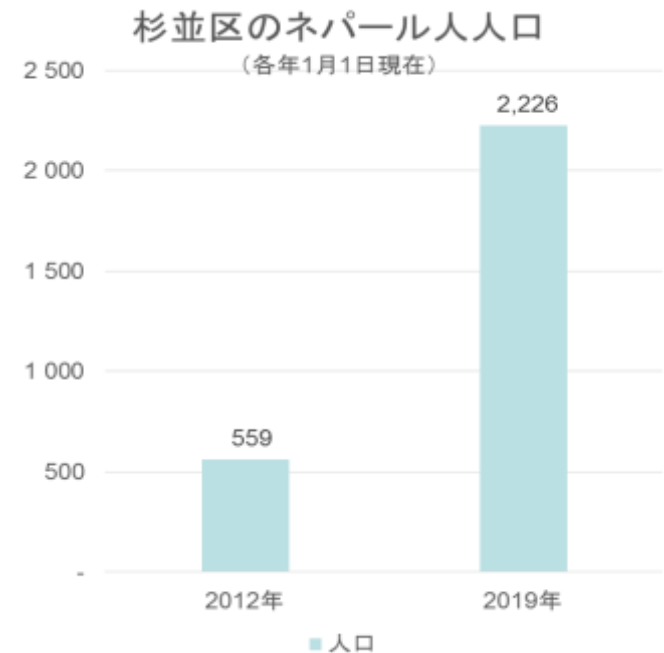
## 母子保健活動の背景

- 1991年、健康相談会開催から在日外国人支援事業が開始。電話相談対応や感染症を中心とする医療通訳育成・派遣、外国人医療に関するセミナー、研究事業等、様々な活動を実施
- 日頃から、母子分野の支援/通訳ニーズが高いことを認識していた
- 様々な事例を経験し、「病気になってからの支援」ではなく妊娠期から、地域や自治体とつながりを増やすことでの長期的な予防・健康増進へ
- 国、東京都が妊娠期からの“切れ目ない支援”の充実に力を入れ始めた時期と重なった

# 母子保健活動の背景 なぜ杉並区？

- 2013年にネパール人学校ができ、子を持つネパール人世帯が増加
- コミュニケーションや対応の困難さを抱えた自治体や地域の病院から、シェアに相談が寄せられるように
- 母子保健や子育て支援分野の保健師と連携が得られやすい状況だった(素晴らしい方々との出会い)

など



# 母子保健活動の背景

## 外国人母と子を取り巻く現状

(2015年:都内の一部自治体、外国人妊産婦、国際交流協会等へのインタビューより)

### 外国人の 妊産婦・母

妻より日本語が話せる夫が通訳がわり

夫が病院や保健センターとやり取り  
(夫中心で話が進む)

欲しい情報が得られない  
(日本の母子保健サービスがわからない)

(自分の体のことなのに)  
自己決定ができない

### 医療機関・ 保健センター

妊産婦より日本語が話せる  
夫や家族同伴でサービス提供  
(病院は受け入れの条件)

保健師のほとんどは通訳を活用したこ  
がない

(通訳を求めるまでに至っていない)

赤ちゃん訪問:

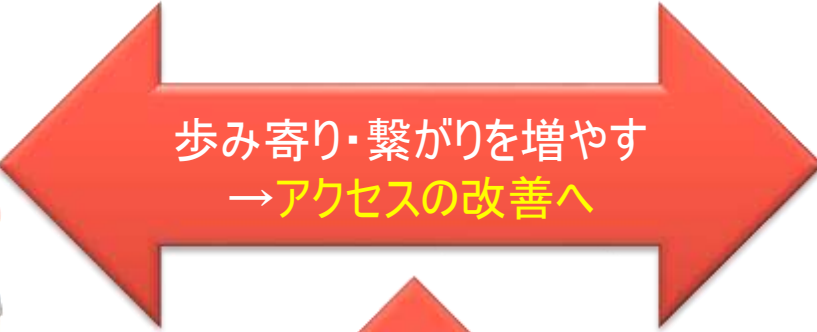
言葉が通じないときは  
玄関で顔だけ見て支援終了も



目標：外国人母子が安心して保健医療サービスを受けられる



保健師



歩み寄り・繋がりを増やす  
→アクセスの改善へ



外国人妊婦



橋渡し・通訳支援



連携・外国人対応支援  
学び合い

・シェアの活動に協力依頼  
・活動への通訳派遣協力  
↓  
協働提案事業開始へ



STAFF



SHARE



育成・学び合い



情報提供・相談対応  
学び合い

勉強会開催  
妊産婦訪問  
(情報提供・相談対応)





# 基本的な母子保健サービスが分かる資料作成 (2018年-2019年)

## ■ 背景

- 日本語の母子健康手帳の配布が基本
- ページ数、情報量が多い
- 読むのに慣れていない文化的背景のある人もいる
- 最低限必要な情報が何かわかりにくい

## ■ 作成した「母と子のチェックリスト」の特徴

- 母子健康手帳と同じ大きさ
- 駐日大使館への手続き
- 出入国在留管理庁への手続き
- 有料か無料を明記

杉並区で活用中  
(ネパール人妊婦から評判を聞いて)

# 自治体との協働提案事業開始(2019年4月～)

最終ゴール

外国人母子の母子保健医療サービスへのアクセスの改善

課題1 外国人の特性に合わせた母親学級の実施と参加

課題2 .....

課題3 .....

③ 母親学級の質の向上

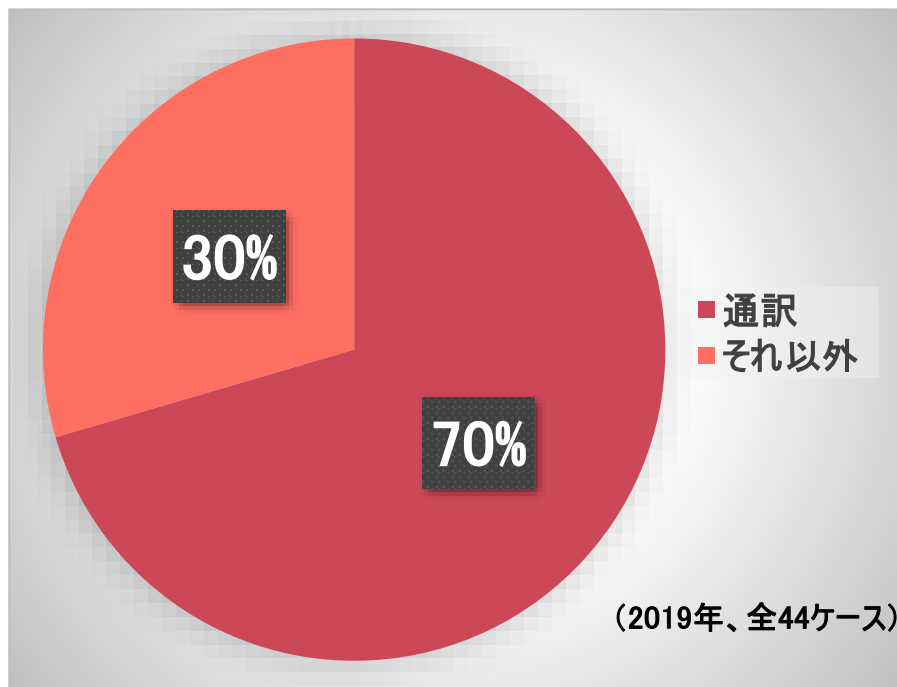
② 妊婦訪問による母親学級参加の動機づけ

① 妊婦面接の質の向上(最初に出会う場)

④ 外国人  
コミュニティ、  
支援団体  
等との連携  
体制づくり

# 通訳活用により、外国人母と直接会話し理解を深める

母子保健相談に占める言葉・通訳関連の相談の割合(2019年)



## <2020年シェア医療通訳派遣>

35件(遠隔通訳含む)のうち  
母子保健関連: 18件(新宿区委託含む)

## <これまでの通訳依頼内容例>

- 産科: 妊婦健診、帝王切開の説明、胎児の病状説明、等
- 保健センター: 母親学級、妊婦訪問、新生児訪問、乳幼児健診、等
- 小児科: 遺伝性疾患などの病状説明、等

- 2021年4月から、母子保健に関する医療通訳派遣にさらに力を入れる
- 対象地域で通訳の積極的利用を増やし、外国人母子の抱える課題の認識を促進する



## まとめ

- 保健師たちが、専門性を発揮して、外国人妊産婦が抱える課題に向き合い、解決しようとした1つ1つの行動が、変化をもたらした
- 自分ひとりや一つの団体が出来ることには限りがあるが、つながりを持ち連携・協力することで、外国人母子支援がより深く、広くなる
- 日頃からコミュニケーションをとり、母と子の健康を守りたいという想いを共有し合っておくことが、連携、協働につながる
- 文化や習慣の違いを知らなくても構わない。対象の外国人住民から教えてもらえる(多民族国家も多く、国で文化をひとくりにできない)
- 文化や習慣の違いを楽しむ。お互いに学び合う姿勢で
- 言葉の壁を取り除けば相互理解は深まる！  
→対象外国人の特性に合ったサービスが提供できるようになる
- 医療通訳活用の方法を理解すると活動がスムーズに
- NPOなどの役割＝接着剤。一步踏み出す手助けをする